芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案　MetaMoJi 活用

MetaMoJi 活用ポイント：画面共有・操作・ノートに写真を貼り付け、メールで送る

～個人の考えを共有し、教師がファシリテーターとなり、協働的な学びを生み出す～

１　題材名　音楽の要素とイメージをつなげよう　**教材名**　オノマトペでリズムをつくろう〔創作〕

２　題材の目標

創作の仕方について理解し、反復、変化の構成を考え、リズムとオノマトペの関わりによって生み出される特質や雰囲気を感じ取り、音楽表現を工夫し、自分の表現したい様子や心情を表現することができる。

３　指導事項

「Ａ　表現　創作」

イ　音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。

エ　音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受して音楽をつくること。

４　題材の評価規準

	観点１　音楽への関心・意欲・態度	観点２　音楽表現の創意工夫	観点３　音楽表現の技能
評価規準に盛り込むべき事項	音階、旋律、副次的な旋律や和音、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成、音楽を形づくっている要素の働きの変化などに関心をもち、創作の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けたり、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を考えたり、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をしたり、表現したい音楽をイメージして音楽を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付け、創造的に表している。
題材の評価規準	①オノマトペの特徴、反復、変化の構成に関心をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、オノマトペの特徴を生かして、反復、変化の構成を考え、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	①オノマトペの特徴、反復、変化の構成を工夫した音楽表現をするために必要な創作の技能（課題に沿った音楽づくり、記譜の仕方）を身に付け、創造的に表している。

５　指導と評価の計画（全３時間）

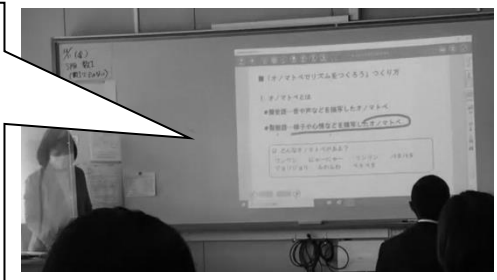
時	◆ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
1	◆創作の仕方について（オノマトペについて、リズムのつくり方について、音楽の構成について）理解し、自分が表現したい様子や心情を考えることができる。	
	・創作の仕方について（オノマトペ、リズム、構成）説明する。 ・どのようなオノマトペがあるか考える。 ・リズムとオノマトペの関わりを理解するために、リズムをつくり、そのリズムにオノマトペ「ぴょん」を当てはめ、オノマトペをリズムに合わせてしゃべる。 ・「ぴょん」というオノマトペを長い音と短い音に当てはめた時、休符を使った時、それぞれどのように感じるかをワークシートに記入する。 ・自分が表現したい様子を表現するためには、どのようなリズムを使うとよいかを理解する。 ・音楽の構成（反復、変化）について理解する。 ・創作の仕方を踏まえて、自分が表現したい様子や心情を考える。	**《音楽への関心・意欲・態度①》** オノマトペの特徴、反復、変化の構成に関心をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 〈観察・ワークシート〉
2	本時の展開	

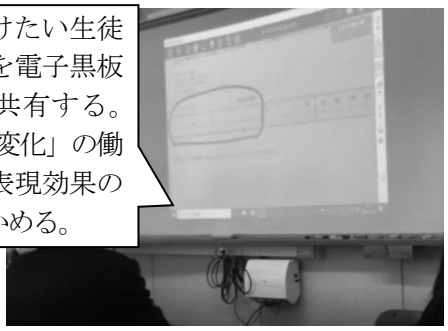
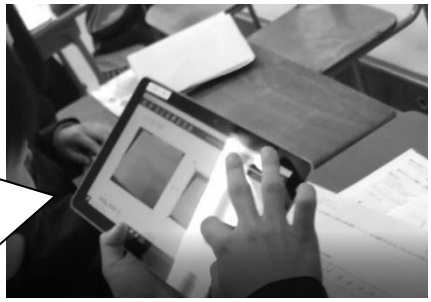
	◆反復、変化の構成を使い、リズムとオノマトペの関わりによって生み出される特質や雰囲気生かして、自分の表現したい様子や心情を音楽表現することができる。	
3	・自分が表現したものを表現するために、どのような工夫をしたのかについてワークシートにまとめる。 ・自分の作品をカメラで撮影し、MetaMoji の白紙のページに貼り付ける。 ・自分のつくったリズムを演奏できるように練習する。 ・つくったリズムを発表し、相互評価する。	**《音楽表現の技能①》** オノマトペの特徴、反復、変化の構成を工夫した音楽表現をするために必要な創作の技能（課題に沿った音楽づくり、記譜の仕方）を身に付け、創造的に表している。 〈発表・ワークシート〉

６　本時のねらい

反復、変化の構成を考え、リズムとオノマトペの関わりによって生み出される特質や雰囲気を感じ取り、音楽表現を工夫して、自分の表現したい様子や心情を表現することができる。

７　本時の展開（２／３時間）

	学習活動	指導上の留意点・観点別評価
導入	○創作の仕方について（オノマトペについて、リズムのつくり方について、音楽の構成について）復習する。	・創作の仕方について（オノマトペについて、リズムのつくり方について、音楽の構成について）まとめたものを提示する。 MetaMoJi 活用
	教師用タブレットで、前時のプリントを画面に示しながら、ポイントとなる部分にラインを引く。すると、電子黒板に反映される。生徒が前時に使用したプリントと同じものを示しながら振り返るため、生徒にとっては前時の学びをより具体的に想起させることができ、本時の課題をつかむことにつながった。生徒用タブレットの画面は右ロックをかけ、電子黒板に集中できるようにしておいた。	
展開(30)	○前時に考えた自分の表現したい様子や心情を確認する。 ○音楽を組み立てていく手順を知る。	・最初に、もととなるリズムをつくり、それを反復、変化させて音楽をつくることを確認する。
	課題：反復と変化の構成を踏まえて、自分が表現したい様子や心情を明確にイメージし、それを表現するためには、どのようなリズムを使うとよいのかを考えて音楽をつくろう。	
	○もととなるリズムをつくる。 ○もととなるリズムを反復、変化させて音楽をつくる。	・自分が表現したい様子や心情をイメージしてリズムをつくるように促す。 ・最初の様子や心情からどのように変化していくのかを明確にさせ、リズムをどのように変化させるとよいか考えるように促す。 MetaMoJi 活用
	教師が、「もとのリズム」「反復」「変化」させながら、自分が表現したいイメージした音楽表現を創っていく過程を電子黒板で示しながら示範した。生徒の学習の見通しをもつことにつながった。	・メトロノームを流しておき、常に音の流れを確認しながら創作できるようにする。 ・机間指導では、自分の表現したい様子や心情を表現できている生徒を価値付けたり、生徒の音楽表現のよさを共有して、つまずいている生徒の参考になるようにしたりする。
		《音楽表現の創意工夫①》 リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、オノマトペの特徴を生かして、反復、変化の構成を考え、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。〈観察・ワークシート〉

	○自分の作品を保存、送信する。 ○生徒の音楽表現を紹介し、本時の学びの振り返りをする。 価値づけたい生徒のデータを電子黒板に示して共有する。「反復」「変化」の働きとその表現効果のよさを確かめる。 	・本時作成した作品を保存し、提出する。 **MetaMoJi 活用** 創作したリズムフレーズをタブレットで撮影、保存をする。その後、共有をするために、生徒は教師にデータを提出する。  データを送付し、全体の画面で共有する。 ・自分が表現したい様子や心情をイメージしてつくられたリズムを紹介し、全体で共有し、価値付ける。

（1）成果

MetaMoJi を活用することの良さを一番感じたのは、情報の共有がしやすくなったことである。まず、生徒の作品を写真に撮ることで、板書しなくてもクラス全体に作品を提示することができ、スムーズに授業を進めることができた。さらに、授業の終わりに、生徒一人一人に自分の作品を写真に撮らせ、MetaMoJi に保存させることで、ワークシートを回収しなくても、生徒がどのような作品をつくったのかを授業後に確認することができ、ワークシートの管理がしやすくなった。このことにより、生徒の学習の状況を把握し、指導に生かすことにつながった。

その他にも、前時の振り返りをする際に MetaMoJi を活用した。前時に使用したワークシートを提示しながら振り返りをすることができるため、本時につながるポイントが押さえやすいと感じた。

生徒からは、MetaMoJi アプリを活用することで、ホワイトボードに写し出されているものと同じものがタブレットで見ることができるため、見やすくなってよかったという感想が多くあった。結果、生徒たちは見通しをもって学ぶことにつながり、主体的に学びを進めることができた。

（2）課題

・MetaMoJi の様々な機能の使い方の説明の時間の確保が難しい。MetaMoJi を活用すると、紙媒体のワークシートを配布しなくても課題に取り組むことができたり、教員が机間指導しなくても生徒の取組状況を把握することができたりと、タブレット上で生徒とやり取りが可能となる。よって、生徒の活動時間がより多く確保できると考えていた。しかし、実際は説明の時間が長くなり、活動時間が短くなってしまっていた。授業では、ICT 機器を活用することが目的ではない。本時では、創作する際には、紙媒体のワークシートを使用した。どのカードを使っていくのか、手に取りながら、リズムを口に出しながら追求させたいと考えたからである。タブレットを使うことと、紙媒体のワークシートを使うこととのメリット・デメリットを考える必要がある。生徒が資質･能力を身に付けさせるために必要な活用の仕方を十分に考えて活用していかなければならないと感じた。

・現在、音楽室は普通教室とは違い、インターネットに接続できないなど ICT 環境が整っておらず、音楽の授業でタブレットを使用することが難しい状況にある。実際に MetaMoJi を使って授業を実施してみて、ICT 機器を活用することは生徒に身に付けさせたい力を育むための一つの手立てとして有効だと感じた。したがって、今後どの教室でも ICT 機器の使用ができるように環境を整えていただけるとありがたいと思う。

（3）今後に向けて

今回、ICT 機器を活用した授業を行い、それを活用して授業することは生徒の理解や思考を深めるために有効な手段だと感じた。今後は、生徒自身に思考・判断させて自分の音楽表現を高められるようにするために、録音・録画機能などを活用したり、教師自身が MetaMoJi の様々な機能を学んだりして、より効果的な活用の仕方を考えていきたい。